

# わだいの



▶曲に合わせて歌う参加者



浦地区さわやか学級 倉岳

## 懐かしの名曲をアコーディオンにのせて

11月21日、浦公民館でふれあい・いきいきサロンとの同時開催で「浦地区さわやか学級」が行われ、地区内の高齢者や民生委員児童委員など40人が参加しました。これは、同公民館が開催しているもの。同学級では、アコーディオン奏者の森繁美氏（上天草市龍ヶ岳町）が、「荒城の月」や「みかんの花咲く丘」など、明治・昭和期の懐かしいメロディー30曲を披露し、参加者も演奏に合わせて合唱を楽しみました。

その後、市食生活改善推進員が用意した豚汁、酢の物などの昼食を堪能。参加者は、「えらいよかった～」と大喜びでした。



◀アコーディオンを演奏する 森繁美氏

町内の保育園児が牛のお世話を体験 有明

## 牛さんのお世話でモ一大興奮！

11月16日から同21日まで、町内の保育園児49人が畜産農家を訪れ、牛のお世話を体験しました。これは、同26・27日に開かれた「有明うまかもん収穫祭」のイベントの一環として行われたもの。期間中、園児たちは、最初は恐るおそる遠巻きに牛を見ていましたが、しだいに慣れてくると干し草を食べさせたり、子牛の頭をなでたりして触れ合っていました。

体験を終えた園児たちは、「保育園に帰ったら早く牛さんの絵を書きたい」と笑顔で話していました。



▲牛に干し草を食べさせる園児たち



▲正しい横断方法を実践する子どもたち

新合地区交通安全推進大会 河浦

## 交通安全意識の高揚を目ざして

11月20日、「新合地区交通安全推進大会」が新合小学校グラウンドで行われ、地区住民など約300人が参加しました。これは、住民の交通安全意識の高揚を目的に同地区振興会が開催したもの。大会では、警察などによる自動車の死角や内輪差の実験をはじめ、道路の横断方法や自転車の正しい乗り方の講習・実践などが行われ、参加者は熱心に取り組んでいました。

また、終了後は交通安全を祈願して駅伝大会が開かれ、道行く人たちに交通安全を呼びかけました。

『まぼろしの芹生柿』の干し柿作り 五和

## 地区の新たな特産品に向けて

手野地区では、11月下旬からまぼろしの柿“芹生柿”を使った干し柿作りを行っています。この柿は、平成20年度から手野まちづくり振興会が取り組んでいる「柿の郷づくり」の一環として、地元のコミュニティビジネス組織『芹生園』が同地区に1本だけ残るこの柿を増殖し、地区内に400本を栽培しているもの。今年は、色つやの良い大きな実が約400個収穫され、中には直径12cm、重さ500gを超えるものもありました。

同園の干し柿施設には、一つひとついいねにつるされた鮮やかなオレンジ色の柿が並び、正月ごろには濃厚な甘みを蓄えた干し柿ができ上がるとのこと。なお、できた干し柿は『芹生のべっぴんさん』という商品名で、今回は主に試食用として市内外に提供される予定です。



▲所狭しとつるされた干し柿。“芹生のべっぴんさん”へ



▲まるまると実った“芹生柿”



▲選果作業のようす

デコポンの出荷始まる 本渡

## 質・量ともに上々！

11月下旬から、天草特産のみかん“デコボン”の出荷が始まりました。デコポンは、熊本県果実連の商標で、不知火という品種のみかんのうち、甘さ、すっぱさの基準をクリアしたものをいいます。12月3日、本渡五和農協の選果場では、専用のセンサーを通過し大きさや品質ごとに選別されたデコポンを、作業員が慣れた手つきで箱につめていました。同農協の担当者は、「質・量ともに良いでき」と話していました。

なお、このデコポンは、贈答用として主に関東・関西方面へ出荷されています。

牛深あかね市・牛深海中公園マラソン大会 牛深

## 海と山の恵みがいっぱい

12月3・4日、牛深ハイヤ大橋横の芝生広場一帯で「第22回牛深あかね市」が開かれました。催しでは、恒例の“あかねタイ釣り大会”をはじめ、新鮮な魚介類や農産物がずらりと並んだ“いきいきマーケット”、ステージイベントなどが行われ、約27,000人の人出でにぎわいました。また、同4日には「牛深海中公園マラソン大会」も実施。牛深中学校をスタート・フィニッシュとする5・10kmコースに県内外から約700人が参加し、選手たちはさわやかな潮風を受けながら健脚を競っていました。



▲牛深ハイヤ大橋を走る選手たち